

MRI、PET検査を受けた皆様へ（臨床研究に関する情報）

病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、生活の質の向上などのために、人を対象として行われる研究のことを臨床研究といいます。より良い医療の発展のために、多くの患者さんに臨床研究にご協力頂くことが必要です。

量子科学技術研究開発機構（以下、量研機構）では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、ADHD患者さんおよび健常ボランティアの方のPET、MRI、神経心理検査のデータ等を解析することでドーパミンとノルアドレナリン神経系機能と症状の関連を調べ、ADHDの病態を解明することを目的としております。この研究は、本研究とは別に実施された臨床研究のデータをまとめて解析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

〔研究課題名〕 注意欠陥多動性障害におけるドーパミンおよびノルアドレナリントランスポーター結合能と臨床症状との関連に関する共同研究

〔別途、実施されたデータを解析する対象となる臨床研究〕

- ① 「ADHD 患者のメチルフェニデート未服薬時・服薬時におけるドーパミンおよびノルアドレナリントランスポーター結合能の変化と臨床症状との関連についての検討」
（量研機構研究計画書番号：19-031）
- ② 「自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症における脳内ドーパミン D1 受容体およびノルアドレナリントランスポーター結合と症状との関連についての研究」※
（量研機構研究計画書番号：16-038）

※この研究には健常ボランティアの方のデータ（SCH23380 PET検査データを除く）のみ利用します。

〔研究実施期間〕 許可日～2028年3月31日

〔研究機関〕 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 脳機能イメージング研究センター

〔研究代表者〕 片岡優子

〔共同研究機関〕 東京科学大学大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野

〔共同研究機関の研究責任者〕 高橋英彦

〔研究の目的〕 本研究は、ADHD患者さんおよび健常ボランティアの方に対して行われたPETやMRI、神経心理検査のデータを解析し、ドーパミンとノルアドレナリン神経系機能と症状の関連を調べ、ADHDの病態を解明することを目的としております。

〔研究の方法〕

●対象となる方：2017年2月以降に上記①と②の臨床研究に参加された（参加される）ADHD患者さんおよび健常ボランティアの方の中でデータを別研究に利用させていただくことについての同意が得られている方

●利用する研究情報：年齢、性別、教育歴等の臨床情報、MRIデータ、 ^{18}F FE-PE2Iあるいは（S,S）- ^{18}F FMeNER-D2を用いて施行されたPET検査のデータ、神経心理検査のデータ

別途実施済みの研究データを利用するため、新たな質問や検査の必要はありません。

量研機構と共同研究機関の間で匿名化したデータを共有・解析し、共同研究を行います。

〔個人情報の取り扱い〕

お名前や個人情報が出ることは、一切ありません。

利用する情報からは、お名前、住所など、対象者の方を直接同定できる個人情報は削除します。また研究成果を学会や学術雑誌で発表する際も、対象者の方を特定できる個人情報は利用しません。

〔問い合わせ先：窓口〕

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

QST病院 臨床研究支援課

電話：043-206-4713

平日：8：30 ～ 17：00